

中央大学 2026 年度特別入試 【出題の意図】

試験方式	スポーツ推薦入学試験
学部（学科/専攻）	法学部
科目	小論文

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

【出題の意図】

スポーツ推薦入学試験の受験生は、これまで、真剣にスポーツに取り組んできた人たちである。しかし、自分自身の競技力向上に注力することはあっても、スポーツが地域振興に重要な役割を果たしていることを意識することは、あまりなかったと思われる。

この試験で小論文を作成することを通じて、自分自身の競技者としての歩みを振り返り、スポーツを通じて地域の人々と交流してきたこと、多くの人に支えられてきたことを思い出すことになったと考えられる。

本問は、大学入学後も競技者としてスポーツを継続することを希望する者に、スポーツが果たしている役割を考えさせることを狙いとしている。

中央大学 2026 年度特別入試 【出題の意図】

試験方式	スポーツ推薦入試
学部（学科/専攻）	経済学部
科目	小論文

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

【出題の意図】

本小論文問題の出題意図は、スポーツにおける勝利と公平性の関係について表面的な意見を求めることではなく、両者の間に生じる葛藤を整理し、受験生自身がどのように考え、位置づけているかを評価する点にあります。まず、提示された新聞記事を正確に読み取り、「フェア・ゴー（公平な機会）」の精神や、勝利至上主義が子どもの成長機会を狭めているという問題提起を、感情論に流されず論理的に把握できているかが問われています。

さらに、「すべての選手に挑戦の機会を与えること」と「勝利や成果を追求する競技スポーツの論理」という、必ずしも容易には両立しない二つの価値について、その対立がなぜ生じるのかを理解したうえで、どのような調和の在り方が考えられるのかを自分の言葉で説明できるかが重要です。また、スポーツを個人の努力や才能の問題としてのみ捉えるのではなく、部活動や大会制度、指導者の意識といった教育的・社会的文脈の中で捉える視点も求められています。

加えて、自身の競技経験を振り返り、「フェア・ゴー」という理念を今後どのように実践していくかを具体的に述べることで、自己の経験を抽象化し、価値判断として表現する省察力が評価されます。総じて本問は、勝利と公平性の関係を単純に二分するのではなく、それを整理しながら考えることのできる、思考力と姿勢を備えた学生かどうかを見極めることを目的としています。

中央大学 2026 年度特別入試 【出題の意図】

学部・試験方式	商学部 スポーツ推薦入学試験
科目	小論文

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

【出題の意図】

小中学校現場における教員の長時間勤務と課外活動に関するテーマを取り上げた。

- (1) 中学校教員がなぜ勤務時間が長くなっているのかを新聞記事から内容を汲み取り、要約できる力があるかを問う。また、その背景についても的確に理解して論述できるかを問う。
- (2) とりわけ勤務時間が長くなっている中学校教員の課外活動の指導について、改善策を問うている。課題を克服する具体的な提案力と論述ができるかを判断する。

中央大学 2026 年度特別入試 【出題の意図】

学部・試験方式	基幹理工学部・社会理工学部・先進理工学部 スポーツ推薦入学試験
科目	筆記試験「小論文」

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

【出題の意図】

スポーツ推薦入学試験では、アドミッションポリシーにおける評価項目に基づき、本学独自の筆記試験を通じて「知識獲得力」、「コミュニケーション力」、「組織的行動能力」、「自己実現力」等を総合的に評価します。

基幹理工学部・社会理工学部・先進理工学部の各問題については、以下のような観点から出題しています。

1.

出願者がこれまでに行なってきたスポーツ活動において、理数系の知見をどのように活かし技能を向上させたかを問うことにより、出願者のスポーツにおける問題解決能力や応用力、実践力を推し量るとともに、理数系知識の程度を評価することを意図しています。

2.

今後の大学生活における学問とスポーツ活動との両立策を具体的に述べさせることにより、出願者の自己管理能力や計画性を評価することに加え、それぞれの対象とするスポーツ活動への意欲の強さを推し量ることを意図しています。

中央大学 2026 年度特別入試 【出題の意図】

学部・試験方式	総合政策学部・スポーツ推薦入試
科目	小論文

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

【出題の意図】

小論文では『読売新聞』2024年3月24日（大阪朝刊）35頁に掲載された中学校の部活動（特に運動部）に関する記事を課題文とし、その問題点と解決策について受験生の理解力・思考力・表現力を評価することを意図した。なお、スポーツ推薦入試という特性上、運動部に関わる問題を自分事として捉える姿勢にも注目した。

1. 理解力

課題文では中・高等学校部活動の地域移行をめぐる問題点を、3人の関係者が論じている。そこには共通する問題もあれば、各人独自の視点によるものもあるが、それらを全体として正確に把握し、整理できるかを問うた。解答では、1人の関係者だけを取り上げたり、自分にとって理解しやすい分野に偏ったりすることなく、3人の関係者の立場の違いを理解しつつ、全体的な傾向を把握できているかどうかを重視した。

2. 思考力

課題文で提示された問題点に対して、自分の意見や解決などを論理的に提示できるかを検証する。中高部活動の地域移行が必要とされるようになった社会的背景を理解すると同時に、それを自らの経験等と結びつけることで、社会的な問題と個人の問題が接続していることを理解してもらいたい。中高等学校における部活動の意義や教員ら関係者の負担、将来のスポーツ政策の在り方や自分の進路など、様々な観点から多角的に思考できているかどうか、判断材料となる。

3. 表現力

自分の考えを論理的かつ説得力のある文章で表現できているかに注目する。適切な段落構成、明確な主張とそれを支える根拠の提示、論理の一貫性などを重視する。また、課題文で主張されている内容を正しく理解し、それを適切に表現できているか、問2で自らの経験を取り上げた場合は、それが課題文の趣旨に合致しているかどうかを検証する。

誤字脱字がないか、誤った言葉遣いをしていないか、段落の始め方や切り方が適切であるかなど、簡潔で読みやすく、誤解を生まない文章を書けているかどうか、採点に含める。